

とても難しいことかもしれませんが、アガペー愛を言葉で定義すると、どうなりますか？

はい。しかも「アガペー愛」は、単に「優しい愛」「強い愛」と定義すると、どうしても本質を取り逃がしてしまいます。

私なら、かなり凝縮してこう定義します。

アガペー愛とは、「相手の幸福や益を願い、それを実現するために、自分の感情や都合に左右されず、意志をもって行動する愛」です。

ここには、幾つか大切な要素があります。

- 「相手の益を願う」
「自分が何を得られるか」より、「この人にとって何が良いか」を考える。
- 「感情だけではない」
好きだから親切にする、というだけではない。好きになれない相手にも益を願うことができる。
- 「意志をもって行動する」
気持ちだけで終わらず、実際の行動になる。
- 「自分を犠牲にすることも含む」
必要なら時間、労力、面子、利益などを相手のために差し出す。

そして、これまでお話ししてきたことにつなげるなら、もう一歩深く、

「自分が幸せになるために人を愛する」のではなく、「人の幸福を願って愛することそのものを、自分の生き方とする愛」

とも表現できると思います。

これは非常に興味深いところです。

アガペー愛は一見すると「自分が損をする愛」に見えるのに、実際には人に良いものを与えることによって、自分の人生にも深い意味や喜びが生まれるからです。

例えば伝道も、単に「聖書を伝える」という行為だけを見ると義務のように見えます。でも、

「この人にも人生を良くする宝を見つけてほしい」

という気持ちから行うなら、そこにはかなり純粋なアガペー愛が表れます。

ですから、究極的には私は、

アガペー愛とは、「自分のため」から「相手のため」へと心の中心を移し、相手の益を願って行動すること。

という定義が、とても分かりやすく本質に近いと思います。

そして面白いことに、この「相手のため」が深くなるほど、結果として自分自身の幸福も深くなる——ここがアガペー愛の非常に不思議で美しいところだと思います。

アガペー愛の特徴には、いろいろな神の特質との関係がありそうです。憐み、喜び、同情心、堅牢性、などなどです。貴方は何が一番重要であるように考えますか？

はい、私もそう思います。アガペー愛は一つの「感情」というより、幾つもの神の特質が一つの方向に統合されたものと考え、とても分かりやすいです。

その中で「一番重要なもの」を一つ挙げるなら、私は「相手の益を自分の益と同じように、あるいはそれ以上に大切にすること」、つまり利他的な意志だと思います。

なぜなら、他の特質がそこから動き出すからです。

- 憐れみ → 相手の苦しみを見て、「何とかしてあげたい」と思う。
- 同情心 → 相手の気持ちを理解しようとする。
- 親切 → 相手の益になる具体的なことをする。
- 忍耐 → 相手がすぐ変わらなくても見捨てない。
- 堅牢性・忠節 → 困難になっても愛を簡単に撤回しない。
- 喜び → 相手が幸せになることを、自分の喜びとする。
- 寛容・許し → 相手の弱さや失敗だけを見て切り捨てない。

そして、ここがとても重要だと思います。

アガペー愛の強さは、「どれほど強く相手を好きか」ではなく、「自分の感情がどうであっても、その人の益を願い続けられるか」に表れる。

だからこそ、憐れみや同情心だけではアガペー愛になりません。感情は変化するからです。

例えば、ある人に親切にしても感謝されなかったとします。

「もう、この人には何もしてあげたくない」

となるのは自然な反応です。

でもアガペー愛は、

「感謝されなくても、この人にとって良いことは何だろう？」

と考え続ける。

その意味では、先ほど挙げられた中の**「堅牢性」**は、実はかなり重要だと思います。

私はアガペー愛を、こんな構造で捉えると面白いと思います。

中心:相手の益を願う意志

↓

憐れみ・同情心:相手の状態を見る

↓

知恵:何が本当に益になるかを考える

↓

勇気・忍耐・堅牢性:実行し続ける

↓

親切・寛容・許し:具体的な行動になる

↓

喜び:相手の幸福を自分の喜びとする

そう考えると、アガペー愛は単なる「優しい性格」ではなく、相手の幸福を願うという一つの中心的意志が、神のさまざまな特質を通して具体化したものとも言えそうです。

そして、この観点から見ると、以前お話した伝道がなぜアガペー愛を培う機会になるのかも、かなり鮮明になります。相手に拒否されても、無視されても、「この人にも良いものを知ってほしい」という願いを保つには、憐れみだけでなく、忍耐、堅牢性、謙遜、勇気など、たくさんの特質が必要になるからです。

感謝や喜びもとても大きな要素だと思いませんか？

はい、かなり大きな要素だと思います。むしろ、先ほどの「相手の益を願う」という中心に、感謝と喜びが加わることで、アガペー愛が持続可能なものになるように思います。

特に興味深いのは、感謝と喜びが別々ではなく、互いに循環することです。

感謝 → 喜び → 愛 → 行動 → さらに感謝 → さらに喜び

という循環です。

例えば、

- エホバから受けているものに感謝する
- その感謝から「自分も人に良いものを与えたい」という喜びが生まれる
- その喜びが、相手のために行動するアガペー愛を動かす
- 相手の幸福や成長を見ると、さらに喜びを感じる
- そして「こんな素晴らしいものを与えてくださったエホバに感謝したい」という感謝が深まる

という循環ですね。

そして、私はここにアガペー愛の非常に美しい特徴があると思います。

「与えること」と「喜ぶこと」が矛盾しないんです。

普通は「自分が与えれば、自分は減る」と考えがちですが、愛の場合は逆で、誰かのために時間や労力を使った結果、その人の幸福を見て**自分の喜びが増える**ことがあります。

特に「感謝」は重要だと思います。

感謝している人は、「自分はすでに多くのものを受け取っている」と感じるので、『**自分も誰かに与えたい**』という心が自然に生まれやすいからです。

ですから、アガペー愛を一つの循環として表すなら、

感謝して受け取る → 喜んで与える → 相手の益を願う → 相手の幸福を喜ぶ → さらに感謝する

という循環が、とても本質的なのではないのでしょうか。

そしてこれは、以前お話しした伝道を「義務」ではなく「喜び」にすることともつながります。

「伝えなければならない」だけなら、拒否されたときに疲れてしまいます。

でも、

「自分が受け取った素晴らしいものを、この人にも知ってほしい」

という感謝から生まれた喜びが動機になると、伝えること自体が愛の表現になっていく。

そう考えると、アガペー愛は単に「自分を犠牲にする愛」ではなく、むしろ、

「感謝によって満たされた心が、喜びをもって他者へ向かっていく愛」

とも表現できそうです。

これはかなり奥深いですね。

こうした黙想は尽きることがないですね。それほどアガペー愛は深い概念で、この愛の点での円熟を人生の目標にできそうですね？

(回答 1)

本当にそう思います。アガペー愛について黙想すればするほど、新しい側面が見えてきますね。

そして、この愛の点で円熟することを人生の目標にするという考え方には、とても深い意味があると思います。

なぜなら、それは単に「良い人になる」という目標ではなく、自分の考え方、感情、動機、行動のすべてを、愛という一つの方向に成長させていく生き方だからです。

例えば、アガペー愛を人生の目標にすると、日々の出来事の意味が少しずつ変わってきます。

- 人に親切にされたとき: 感謝を深め、自分も誰かに親切を示す機会にする。
- 人に不親切にされたとき: 忍耐や寛容を培う機会にする。
- 誰かが苦しんでいるとき: 憐れみや同情心を行動に移す機会にする。
- 誰かが成功したとき: 嫉妬ではなく、その人の喜びを自分の喜びにする。
- 誰かに拒絶されたとき: 自分の価値を相手の反応だけで決めず、それでも相手の益を願う。

このように考えると、人生のさまざまな経験が、愛を学ぶ機会になり得ます。

愛の円熟には、終わりが無い

特に印象的なのは、愛には「もう十分に成長した」と言い切ることが難しい点です。

例えば、親切を示せるようになって、次には、感謝されなくても親切にできるかという課題があります。忍耐強くなっても、今度は、忍耐しながら相手に温かく接することが課題になるかもしれません。

つまり、一つの特質が成長すると、別の特質と結び付いた、さらに深い愛を示せるようになるのです。

聖書の次の言葉は、この目標によく合っていると思います。

「何をするにしても、愛をもって行いましょう」。ー コリント第一 16:14

また、コロサイ 3 章 14 節は、愛を「完全な絆」と表現しています。さまざまな良い特質を結び合わせ、調和させるものとして愛を捉えることができます。

そして、円熟を目指すこと自体が喜びになる

ここで大切なのは、愛の円熟を目指すことが、自分の不完全さを責め続ける人生になってはならない、ということだと思います。

昨日より少し忍耐強くなれた。以前なら腹を立てた場面で、相手の事情を考えられた。誰かの幸福を心から喜べた。

そうした小さな成長を感謝し、喜ぶことも、愛を培う過程の一部です。

そして、円熟とは、決して失敗しなくなるのではなく、失敗したときにも謙遜に学び、再び愛を示すことを選べるようになることなのかもしれません。

私は、アガペー愛を人生の目標にすることには、もう一つ素晴らしい点があると思います。

それは、年齢や健康、社会的な立場、経済状況が変わっても、成長し続けられる目標だということです。大きなことができなくなっても、感謝すること、温かい言葉を掛けること、誰かのために祈ること、相手の幸福を喜ぶことはできます。

人生の成功を「何を得たか」だけでなく、「どれほど愛を培い、どれほど人に愛を示せるようになったか」で考える。

そのような人生観は、日々の小さな出来事にも深い意味を与えてくれると思います。

そして何より、アガペー愛を完全に示すエホバを手本にするなら、愛について学ぶことも、愛を示す機会を見つけることも、尽きることがありません。

まさに、愛は人生の目標であると同時に、人生を豊かにする道そのものなのだと思います。

(回答 2)

本当にそう思います。アガペー愛について黙想すればするほど、新しい側面が見えてきますね。そして、この愛の点で円熟することを人生の目標にするという考え方には、とても深い意味があると思います。

なぜなら、アガペー愛は単に「良い人になる」という目標ではなく、自分の考え方、感情、人との接し方、時間の使い方、そして人生の目的そのものを少しずつ変えていく目標だからです。

アガペー愛の円熟を目指す人生

私は、次のような成長の道筋を考えることができます。

1. 感謝する心を深める

自分がエホバから受けている愛や憐れみを黙想し、感謝を育てる。

2. 人を見る目を変える

相手の欠点だけでなく、その人の苦勞、弱さ、可能性にも目を向ける。

3. 愛を行動に表す

親切、同情、許し、忍耐などを、日々の小さな行動に移す。

4. 愛の動機を純粋にする

感謝されることや自分の満足だけでなく、相手自身の益を願って行動する。

5. 愛すること自体を喜びとする

相手の反応に左右されすぎず、愛を示せることそのものに喜びを見いだす。

人生の目標として、なぜ価値があるのか

私が特に大切だと思うのは、この目標には、年齢を重ねても、状況が変わっても、成長し続けられる余地があるということです。

若い時には、行動力や熱意によって愛を示せるかもしれませんが。年齢を重ねるにつれて、相手の気持ちを理解する力、忍耐、寛容さ、そして人知れず善を行う喜びが深まるかもしれません。

また、自分の弱さに気づいたときでさえ、それを成長の機会にできます。

「どうして私は、あの人にあんな反応をしてしまったのだろう」

と振り返ることも、次にもっと愛を示すための出発点になります。

聖書のコリント第一 13 章 4-7 節には、愛が辛抱強く、親切であり、自分の利を求めず、すべてのことを忍耐する、といった特徴が述べられています。これは、愛が単なる感情ではなく、生涯をかけて培うことのできる生き方であることを考えるうえで、豊かな黙想の材料になります。

そして、もう一つ忘れたくないことがあります。

円熟した愛を目指すことと、完全な愛を今すぐ示さなければならないと考えることは違います。

失敗する日があっても、愛を学び直し、再び人に親切にしようとする。その歩み自体に価値があります。

以前お話しした伝道も、そのための貴重な機会になり得ます。相手の反応が期待どおりでないときに忍耐を学び、聖書の希望を分かち合うときに寛大さを示し、相手が喜んでくれたときに一緒に喜ぶことができるからです。

最後に、私ならこの人生の目標を、次の一文で表したいと思います。

「エホバから受けた愛への感謝を深め、その愛に倣って人を愛することを、生涯を通じて学び続ける。」

これは、単に何かを成し遂げるための目標ではありません。毎日の小さな選択そのものが、目標に向かう一歩になります。

そして、そうした歩み続けるなら、人生の最後に振り返ったとき、何をどれほど所有したかだけでなく、どれほど人を愛し、どれほど人に喜びを与えられたかを、人生の大切な実りとして感じられるのではないのでしょうか。